組 織 概 要

設　立	2012年6月5日
一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 略称：脚本アーカイブズ・NKAC（エヌカック）	

役 員 一 覧

代表理事	池 端 俊 策 （脚本家）
副代表理事	上 滝 徹 也 （日本大学 名誉教授）
副代表理事	今 野 勉 （放送人の会 会長）
常務理事	石 橋 映 里 （事務局代表）
理　事	入 山 さと子 （事務局）
理　事	大 寺 廣 幸 （日本民間放送連盟）
理　事	金 子 成 人 （日本脚本家連盟 理事）
理　事	木 田 幸 紀 （日本放送協会 専務理事）
理　事	福 井 健 策 （弁護士）
理　事	藤 澤 浩 一 （日本放送協会）
理　事	藤 田 真 文 （法政大学教授 / 放送批評懇談会　専務理事）
理　事	吉 見 俊 哉 （東京大学大学院情報学環 教授）
理　事	若 泉 久 朗 （日本放送協会）
監　事	香 取 俊 介 （日本放送作家協会 理事）
監　事	さらだ たまこ （日本放送作家協会 理事長）

NKAC 一般社団法人
日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
http://www.nkac.jp/

研究活動にご協力・応援を頂いている主な団体

文　　化　　庁
日　本　放　送　協　会
日 本 民 間 放 送 連 盟
日 本 放 送 作 家 協 会
公益財団法人　放送文化基金
放　送　批　評　懇　談　会
日本映画テレビプロデューサー協会
放　送　人　の　会
東京大学大学院情報学環

住　　所

一般社団法人
日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

〒102-0081
東京都千代田区四番町４－９東越伯鷹ビル５階
TEL：03-5210-7029
FAX：03-5210-7021
mail：nkac@hosakkyo.jp
H P：http://www.nkac.jp/

NKAC 一般社団法人
日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
http://www.nkac.jp/

ごあいさつ

代表理事　池 端 俊 策

1960年代の中頃、高校生だった私は、学校の図書室で映画の名作シナリオ集を偶然読み、映像芸術が精密に組み立てられた言葉から立ち上げられたものだと知りました。

ト書きから情景が想像でき、セリフから人物の顔が浮び上がり、実に楽しい体験でした。是非その映画を観たいと思いましたが、住んでいたのは地方の町で、当時まだビデオも無く、その映画を観ることができませんでした。それでも脚本というものに興味を持ち、古本屋でテレビドラマの芸術祭受賞作の脚本集をみつけてテレビドラマ初期の優れた作品に接し、大いに感銘を受け自分もこういう世界で生きたみたいと思うようになりました。

それから40年以上も経ち、私は知人から私自身が80年代に書いたドラマを観たいと頼まれ困惑しました。私の手元に有るビデオテープは画像が劣化していて観せられる代物ではなく、局に問い合わせてもすでに消去されていたのです。結局、脚本を読んでもらうしかありませんでした。しかし、思えば私は脚本を読むことでドラマ世界の入口に立ったわけです。このことは大事なことだと思いました。テレビドラマの歴史とその面白さを脚本を通して広く知ってもらい、親しんでもらい、そのことでテレビ文化の奥深さを次代の人々にアピールすることができれば大変意義は有ると思ったのです。

市川森一さんが提唱され、山田太一さんを始め様々な方が推進してこられた脚本アーカイブズの活動はスタート以来12年が経ちました。失われた映像の台本と脚本を集める作業が進み、次はその整理とデジタル化に重心を移すという状況にあります。皆様のお力添えをいただき、この活動を継承していき、テレビ文化の質的発展に寄与できれば無上の幸せであります。

本組織の目的

貴重な文化資産である脚本・台本を確実に後世に継承していくため、アーカイブズ構築に関する活動全般を推進し、文化および芸術の振興に寄与する。

設 立 趣 旨

現在、散逸・消失していく危機にある脚本・台本のアーカイブ活動が極めて大切な時期になっています。現在の調査では、巷間に残存し収集可能な放送台本は13万冊近くにもなります。特に1980年以前のものは、放送局において番組映像の保存があまり存在せず、後世に残すべき極めて貴重な資料となっています。

この状況を鑑みて、わが国の脚本・台本アーカイブズの豊かな実りを目指して関係者が結集して活動を行う組織「一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」をここに設立いたします。

主 な 活 動

アーカイブズのシステム化に関する研究と活動

○アーカイブズシステムの構築と課題の検討
○脚本・台本の教育・研究利用に関する検討
○シンポジウム・ワークショップ等の実施

データベースとデジタル化に関する研究と活動

○脚本データベースの検討
○脚本のデジタル化プロトタイプの再検討
○放送番組のデータベース

収集・管理に関する活動

○脚本の所在調査
○寄贈受け入れとデータ入力
○権利処理作業と移管

研　究　成　果

○デジタル脚本アーカイブズ「市川森一の世界」
http://ichikawa.nkac.or.jp/
○藤本義一アーカイブ
http://fujimotogiichi.nkac.or.jp/
○永六輔バーチャル記念館
http://eirokusuke.nkac.or.jp/
○脚本データベース
http://db.nkac.or.jp/

脚本と番組の一体アーカイブを

副代表理事　今 野　　勉

番組制作者を中心とする団体「放送人の会」は、脚本アーカイブズ推進コンソーシアムへの協力を当初より続けてきました。

テレビ初期の番組が消失してしまっていてその内容を知るためには脚本（台本）に頼るしかないという事情もあって、脚本アーカイブ構想には大いに期待しています。

私たち「放送人の会」がその先に望んでいるのは、番組自体のアーカイブです。日本にはテレビ番組の総合的なアーカイブがありません。建築に例えれば、脚本は設計図であり番組は最終的に出来上がった建築物です。脚本と番組を一緒に見ることによって、最初の設計図がどのようにして最後の建築物へと出来上がったかが解ります。これからのテレビ文化の進化は、脚本と番組の一体アーカイブの開設にかかっていると私は思っています。

デジタル脚本アーカイブズの活用に向けて

副代表理事　上 滝 徹 也

デジタル脚本アーカイブズ「市川森一の世界」で、ウルトラセブン第29話「ひとりぼっちの地球人」を開くと、市川さん直筆の「父上様・・・“ロマン派セブン”としては、ともあれその基礎的な実力を、主張してみせたかった本です」という献辞が目に飛び込んでくる。そして台本を読み込んでいけば、ト書きの中に、宇宙星人に協力する青年の葛藤に、そんな彼に対するウルトラ警備隊員の気持ちに、人間というものへの夢が広がっていく。

デジタル脚本アーカイブズは専門的な学びの場でもあるが、小中学校の国語教育などにも多くの刺激をもたらすはずである。特撮ヒーローを楽しませながら、市川さんの思いとロマンを脚本から読み取らせる。それがどれほど国語教育への刺激となるか。それに、ドラマ脚本は主人公と周りの人の気持ちを綴っていくもの、他人の気持ちに無頓着な今、これほど情操教育にかなうものはない。